

少年野球随想 7

「ベンチは禁煙」

荒井 義一

プロ野球から少年野球までベンチ内は禁煙である。ということになっている。

千葉県少年野球連盟は五年前、県下登録の六百チームに対し、次のような注意事項を、通達した。

「ベンチ入りの指導者はベンチ内でのタバコの喫煙を禁止する（退場）また試合中、タバコ等の喫煙を目的としてベンチ外に出た場合は、再びベンチに戻り指導することは出来ない。但し生理的又はその他の都合により、球審の許可を得たときはこの限りではない」
これに対しての私の反論を書く。

*

そもそも野球の監督とは“勝負師”である。勝負師とは目まぐるしく変わる戦局を常に冷静に捉え、次の展開を読んでいるのである。

昔、大山対升田の名人戦をNHKテレビで観たが、升田は斜にかまえて座りタバコを喫いっぱなし、灰皿は吸殻の山、部屋は紫煙でいっぱいだった。

タバコとは“間”をとって考えるためにあるのである。暮打ちも、雀土も、もの書きも頭を使う商売はみな同様である。

とくに少年野球の監督は全員野球をモットにしてゐる。

投手の交代、代打、代走、それにベンチウオーマーの選手をどこかで出してやるつと、

チェンジの合間にベンチを出てタバコを喫いながら考えているのだ。

それに対し、ベンチを出たら再びベンチに戻れない。はないだろう。

*

愛煙家は最近、肩身の狭い思いをしている。政府もマスコミもタバコを吸うなとPRし、公共機関での喫煙を閉め出した。

確かにタバコは肺ガンの原因になるのは領なずけるが、ではなぜ堂々と自動販売機で売っているのだ。それは税収が数千億円もあるからだろう。

世の中、何事にもプラスとマイナスがあるのである。

十四世紀末、コロンブスがアメリカ大陸を発見した。金、銀、銅、石油、石炭、木材等々宝の山と一緒に持って帰ったのがインディアンが喫っていたタバコである。

もう一度言う。世の中、プラスとマイナスがあるのである。

*

師走に植木屋を庭に入れた。

よく見ていると植木の職人は、ちょっと仕事をしては濡れ縁に座り、お茶を飲み、タバコを喫って休んでばかりいる。

「植木屋っていい商売ですね・・・」
と皮肉ったら

「そうじゃないんです。タバコを喫いながら枝ぶりをみて、次にどの枝を切ったら、いい格好になるのだろうと眺めているのです。」

「なるほど……」

少年野球の監督と同じなんだと思った。

この話を女房に言ったら

「それが我田引水というのよ……」

と一蹴された。

「ああ………」

(平成十八年四月十日脱稿)